

<福島県知事賞>

税金と僕たち

いわき市立久之浜中学校 2年 鈴木 陽翔

僕たちの生活の中には、色々な税がある。例えば、所得税、法人税、消費税などが挙げられる。でも、税金はどこにどのように使われてるのだろうか。

まず、税金は、僕たちが毎日通っている学校に使われていることが分かった。この税金は、学校の建設や義務教育期間中の教科書の無料配布などを行っている。また、税金は、道路や橋の整備を行っている。全国の都道府県が税金の何パーセント、何円ぐらい使っているか分かる、国土交通省公表の道路統計年報2020によると、福島県は1兆3218億円のうち1320億円、約10パーセントを道路や橋の整備費用に使っている。また、税金は、地域の安全を守る警察、怪我したり病院で倒れた人などを救急搬送するための救急車、火を消火するための消防車などにも税金が使われている。このように、税金は色々な僕たちの生活に関わっていることが分かった。では、もし日本に税金がなかったらどうなるだろうか。まず、税金がなかったら学校は新しく建設できず、義務教育期間中の教科書無償配布がなくなり、各家庭での負担になる。また、税金がなければ、道路や橋の整備が行われず、常に道路に穴が空いており、お金を払わなければ修理してもらえなくなるという状況が生みだされてしまう。さらに、税金がなければ、警察も有料になり、町中は犯罪だらけになるだろう。救急車、子供の薬代は有料になり、いざと言う時に命が助からなくなるかもしれない。さらに消防車を呼ぶにも有料になり、町中

は火の海になる可能性が高いだろう。次は、日本で国税・地方税がどのくらい集まっているかについて触れていく。令和3年のデータでは合計100兆1083億円の税金が集まっている。そのうち、48.7パーセントが所得課税、14.4パーセントが資産課税等、36.9パーセントが消費課税となっている。その中の20.3パーセントは僕たちも納めている消費税も入っている。

税金は僕たちが思ってる以上に大切で、僕らが毎日通う学校、怪我した人、病気で倒れた人たちを運ぶ救急車、町で火事が起きた時に消火する消防車など、僕たちの生活に欠かせないものがたくさんある。もし、税金がなかったら、このような国が行っていることも行われなくなり、僕たちの生活は悪くなってしまう。だからこそ、税を納めることは大切だし、僕たちが今からでも納めることができる消費税をしっかりと納めようと思う。大人になったら、働いて納める所得税、法人の企業活動により得られる所得に対して納める法人税、今からでも納められる、商品の販売やサービスの提供にかかる税の消費税などの税金をしっかりと納めたいと思う。これからの未来、今よりもっと多種多様な税金が登場するかもしれないが、そのときは、この作文を思い出し、しっかりと納めていきたいです。